

第57期（2019年） 決算報告

2020年2月20日

 株式会社 建設技術研究所





第57期決算報告



第57期の事業を振り返って



第58期経営計画



英国Waterman Group Plcについて



第57期決算概要（連結）

■ グループ全体で受注好調

3期連続増収増益・過去最高を更新

（単位：百万円）

項 目	第56期 （実績）	第57期 （計画）	第57期 （実績）	前期比 （％）	計画比 （％）
受 注 高	60,117	63,000	70,718	117.6	112.3
売 上 高	58,443	62,000	62,649	107.2	101.0
営 業 利 益	3,046	3,550	4,267	140.1	120.2
経 常 利 益	3,167	3,600	4,397	138.9	122.2
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,893	2,250	2,808	148.3	124.8



第57期決算概要（個別）

■ 受注好調

3期連続増収増益・過去最高を更新

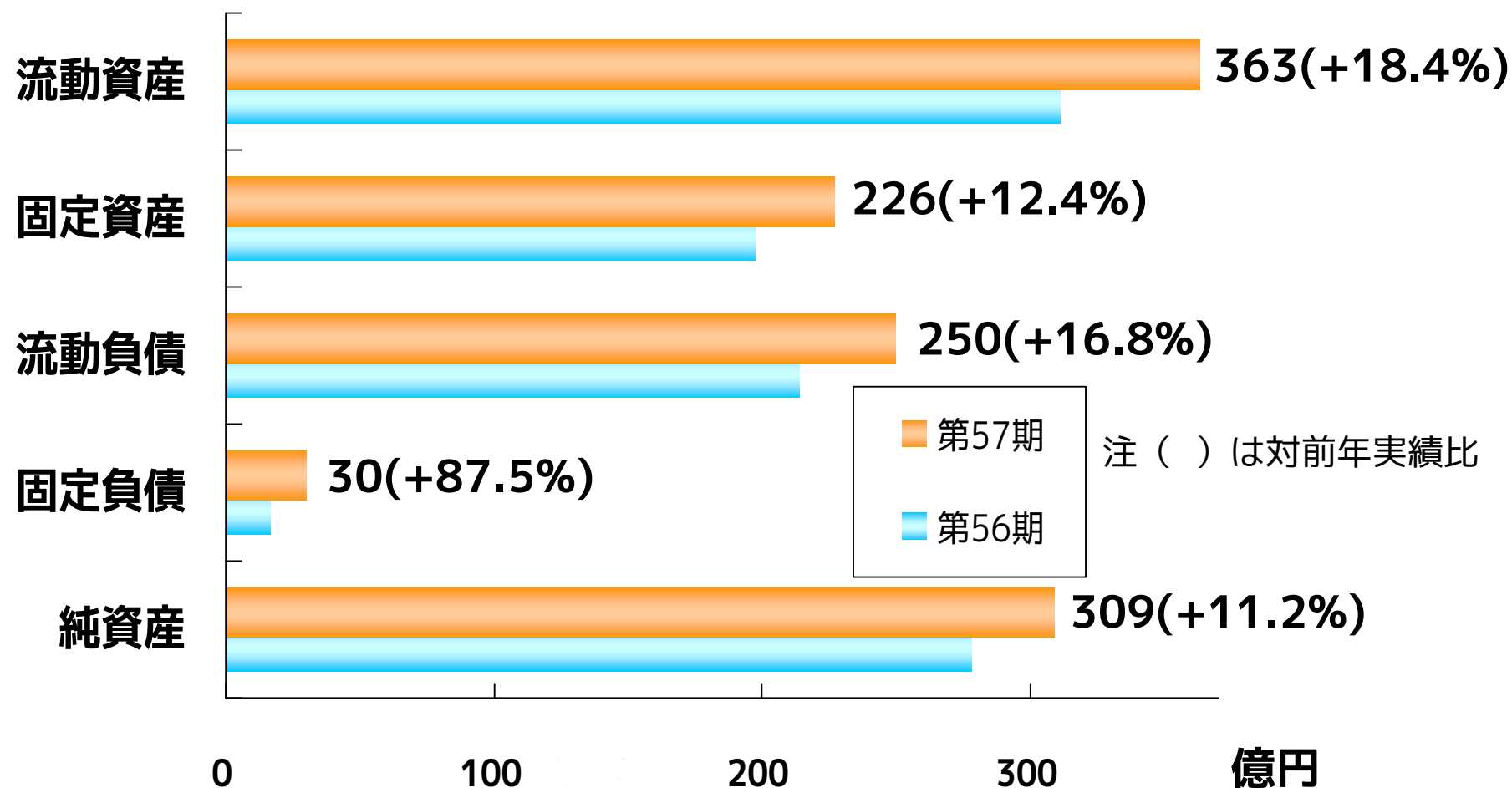
（単位：百万円）

項 目	第56期 （実績）	第57期 （計画）	第57期 （実績）	前期比 （%）	計画比 （%）
受 注 高	41,053	39,000	43,846	106.8	112.4
売 上 高	36,768	40,000	41,068	111.7	102.7
営 業 利 益	2,681	2,950	3,619	135.0	122.7
経 常 利 益	2,821	3,150	3,942	139.7	125.1
当 期 純 利 益	1,778	2,050	2,629	147.9	128.3



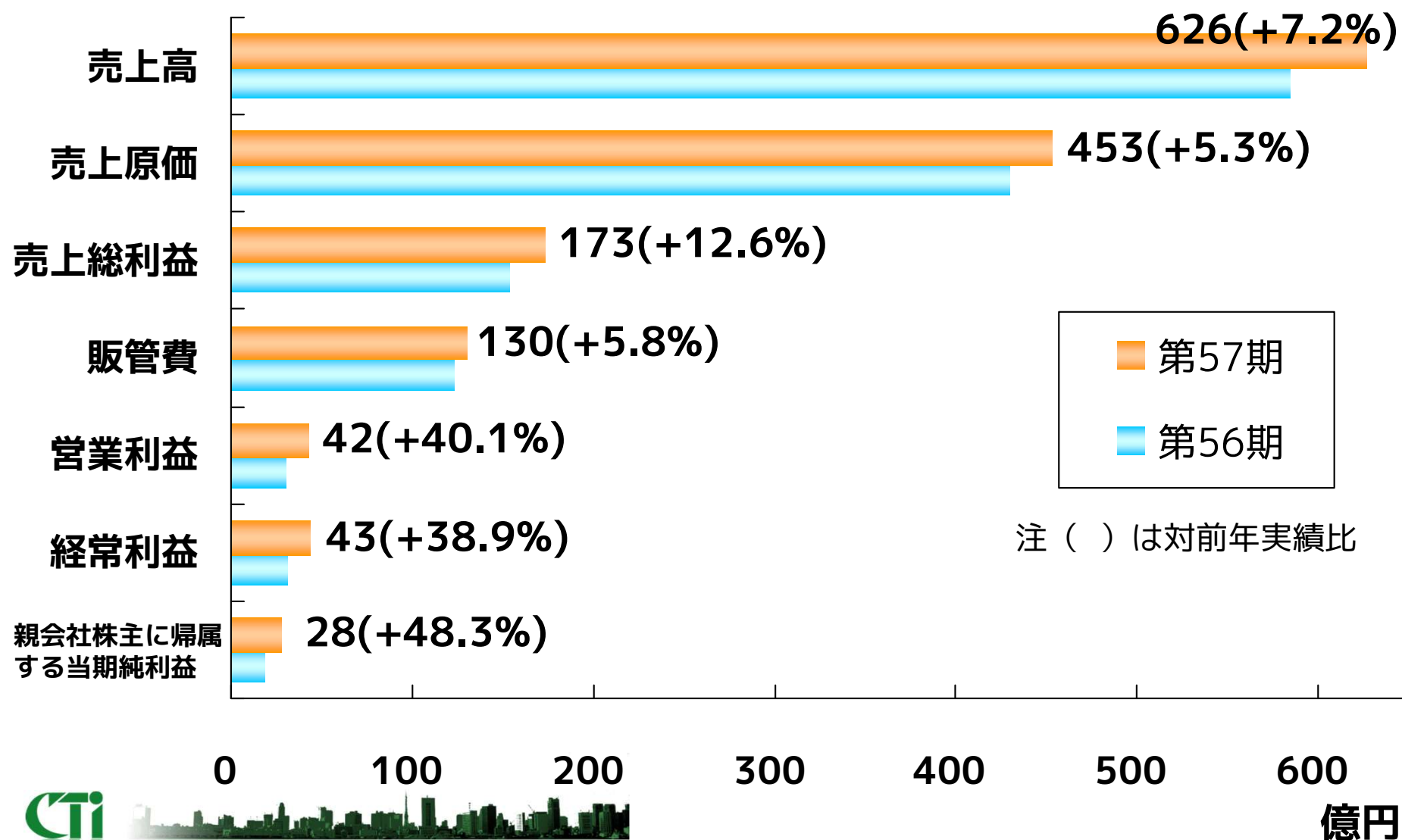
貸借対照表（連結）

■ 連結総資産は、前期末から81億円増の590億円



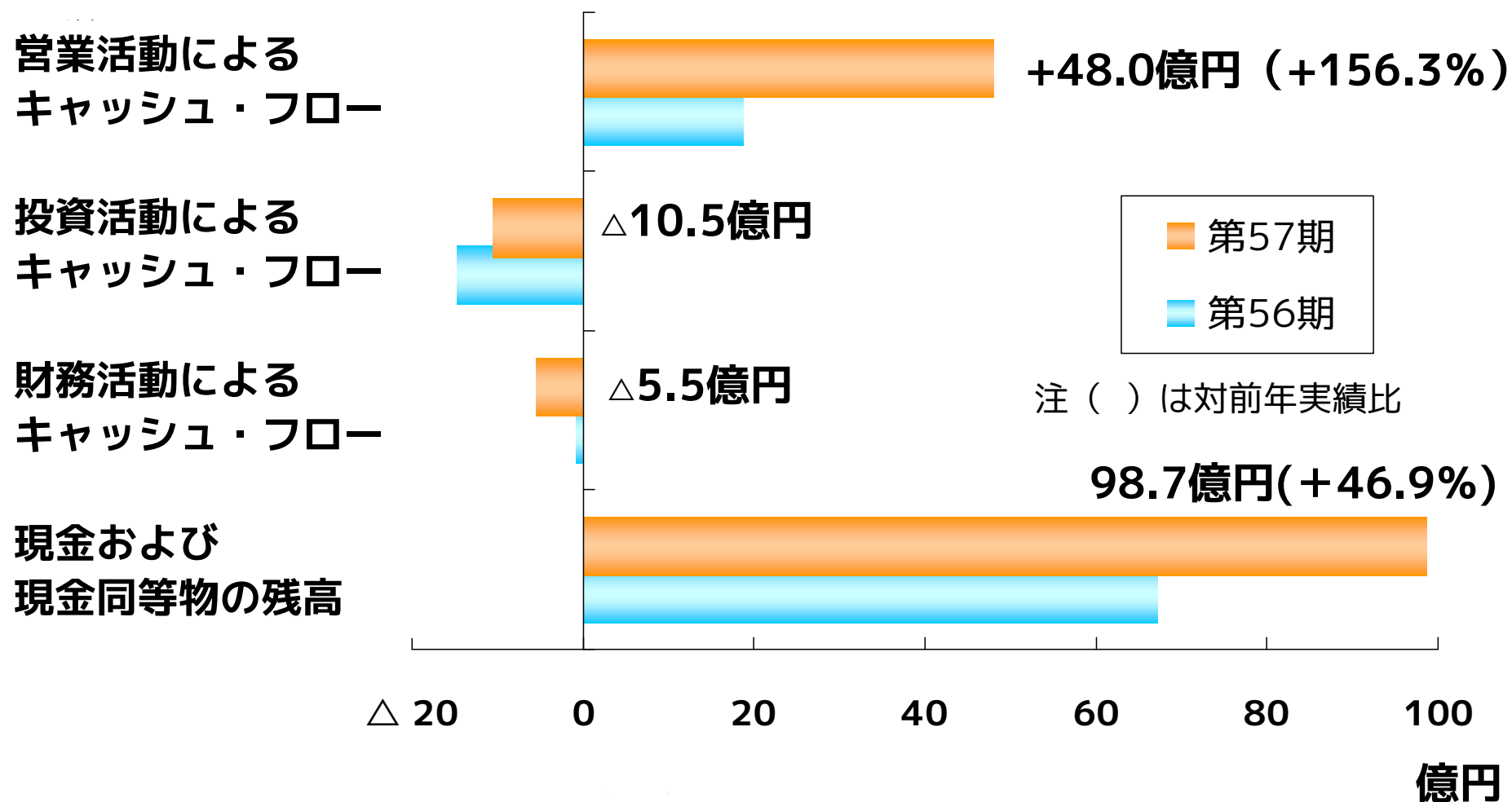
損益計算書（連結）

■ 増収増益



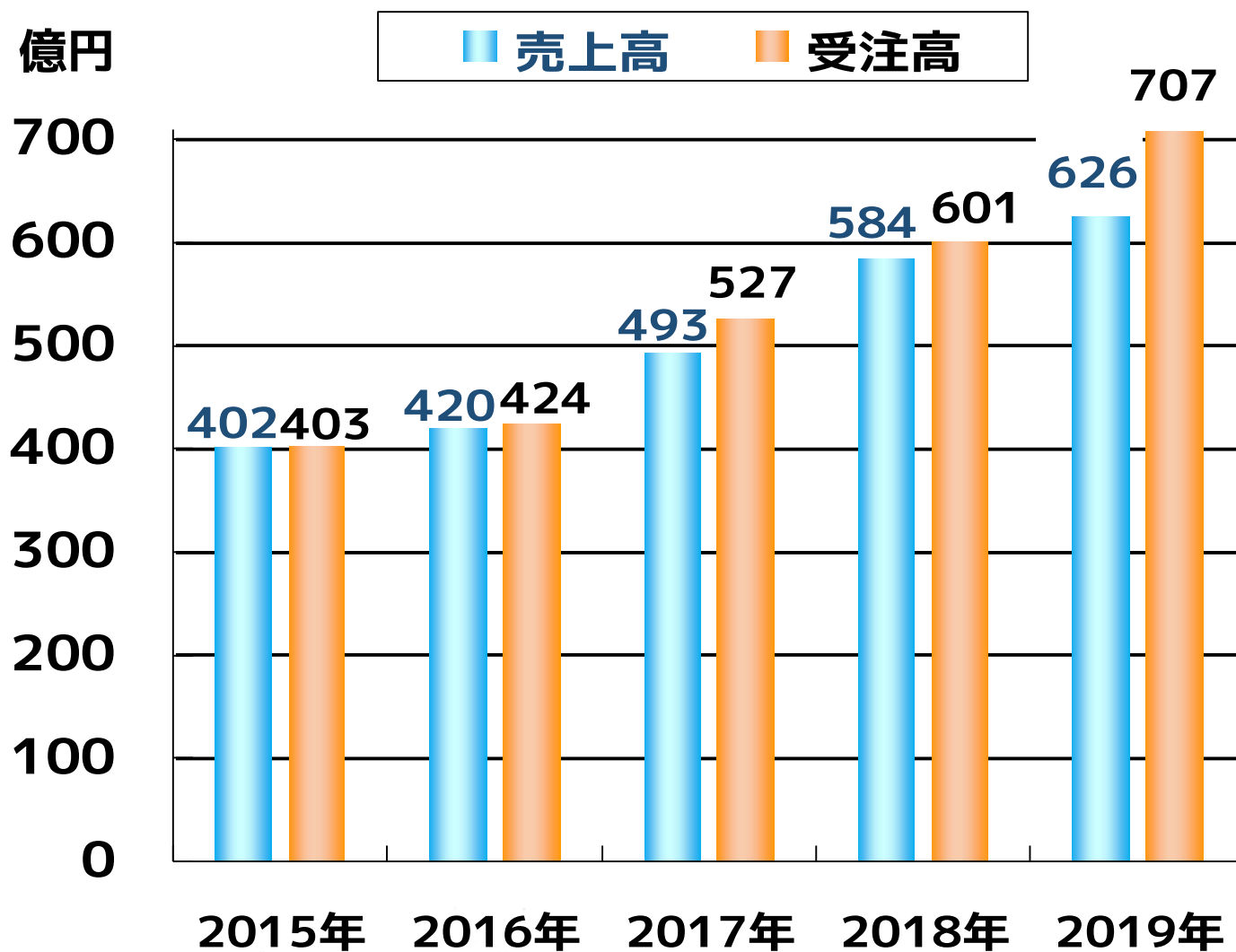
キャッシュ・フロー計算書（連結）

■ 増益により営業活動によるキャッシュ・フローが増加



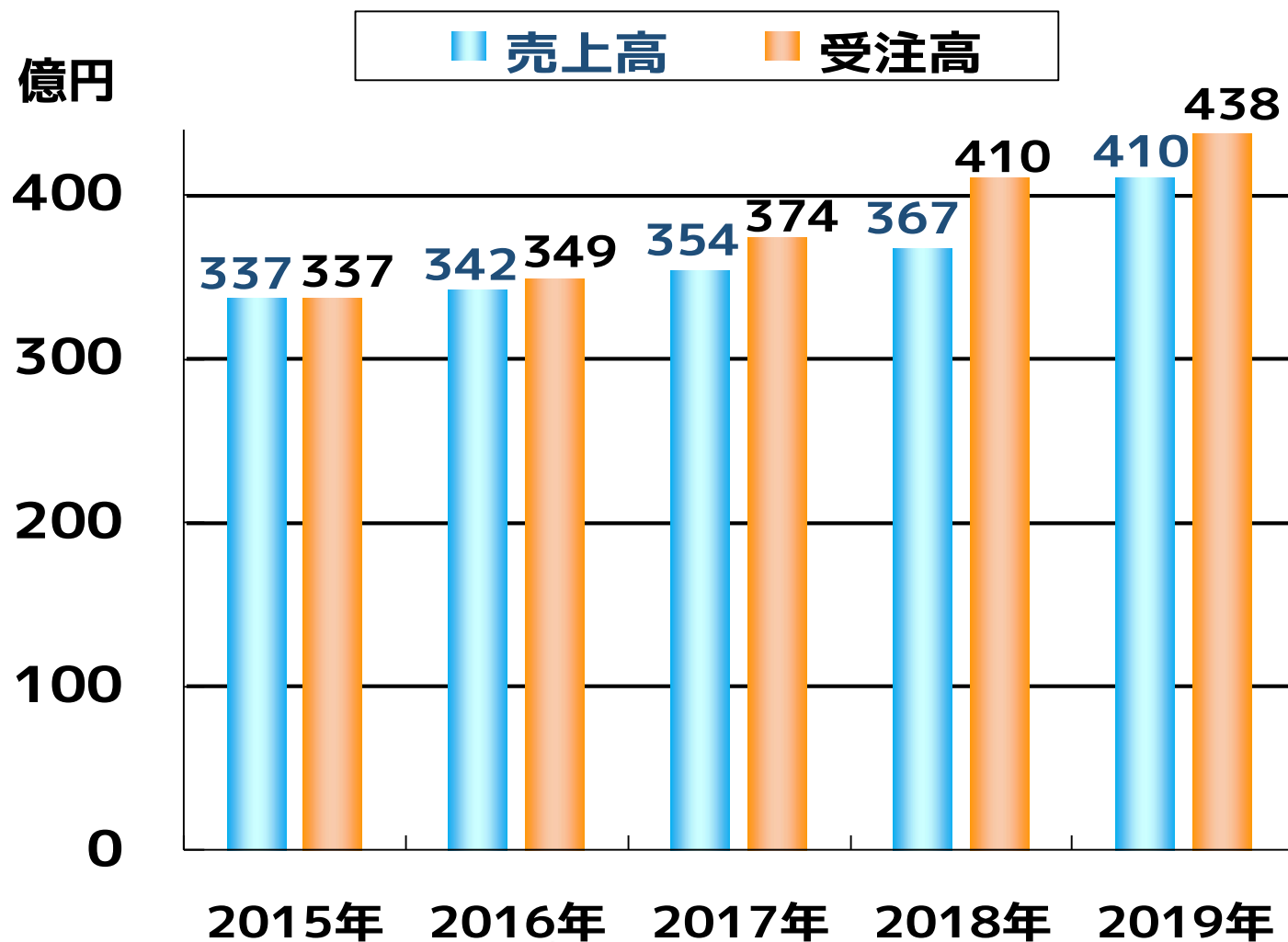
受注高および売上高の推移（連結）

■ 受注が大幅増加



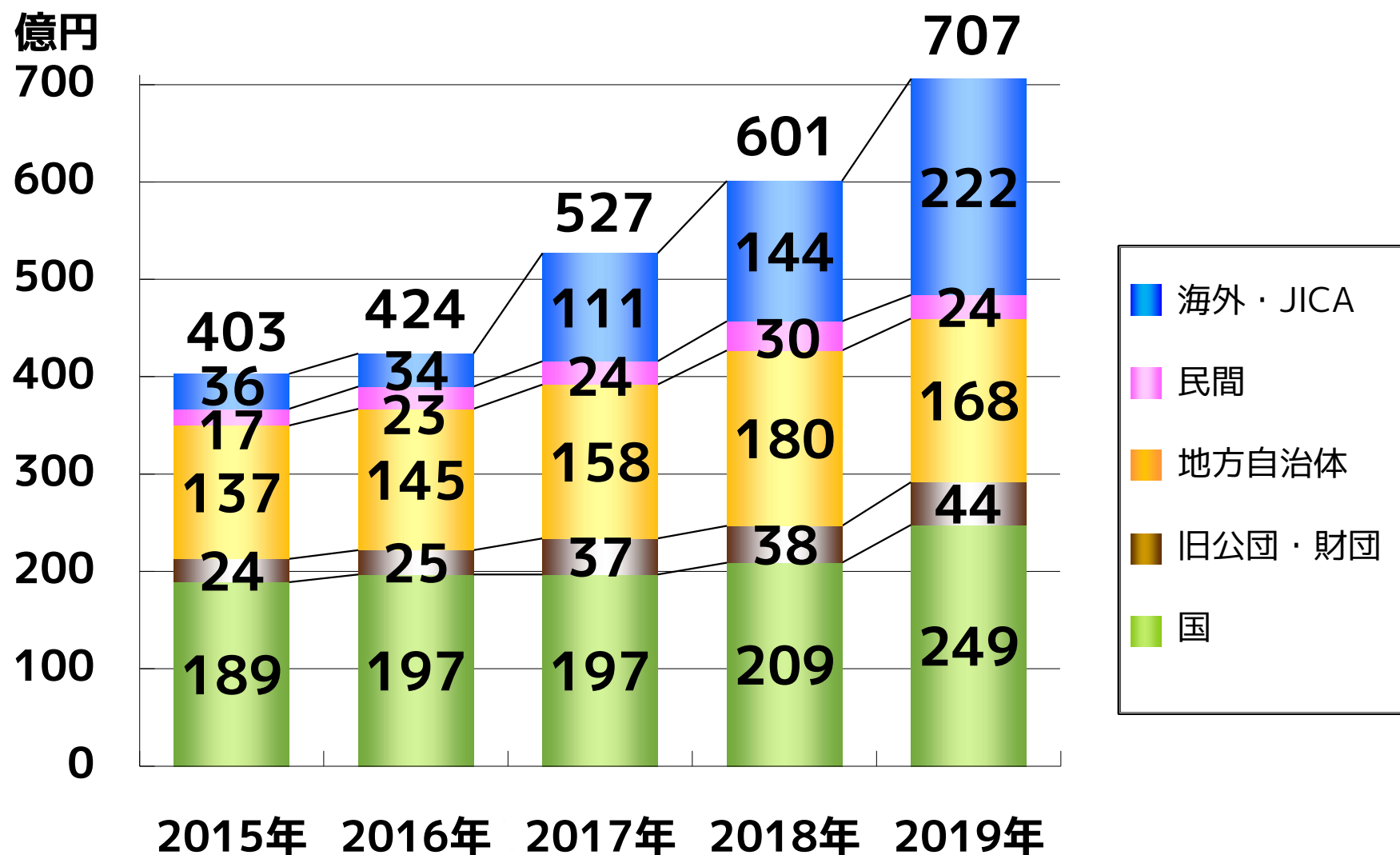
受注高および売上高の推移（個別）

■ 受注・売上ともに400億円台へ



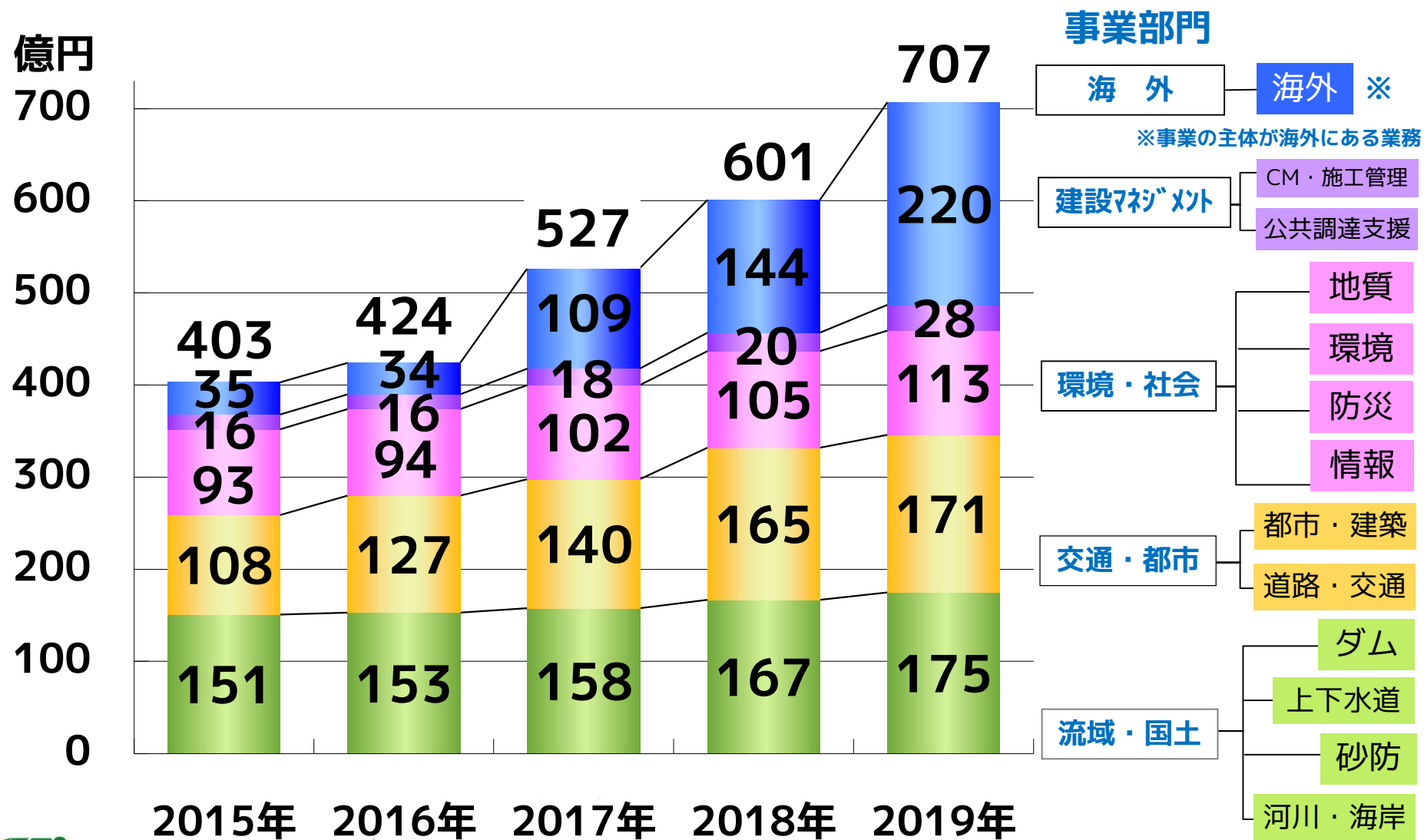
発注者別受注高の推移（連結）

■ 国内外で受注増加



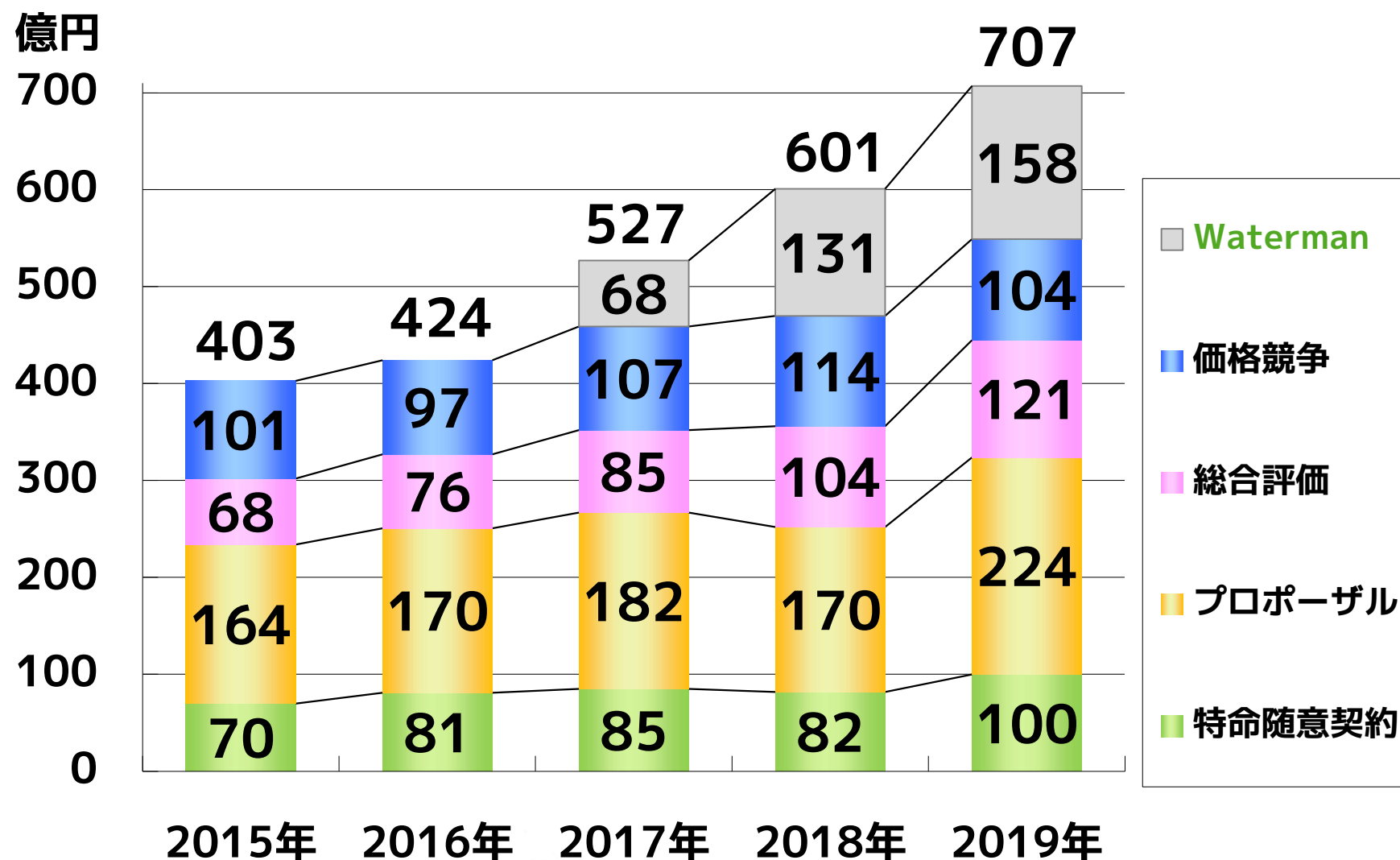
事業部門別受注高の推移（連結）

■ 各部門とも順調に拡大



契約方式別受注高の推移（連結）

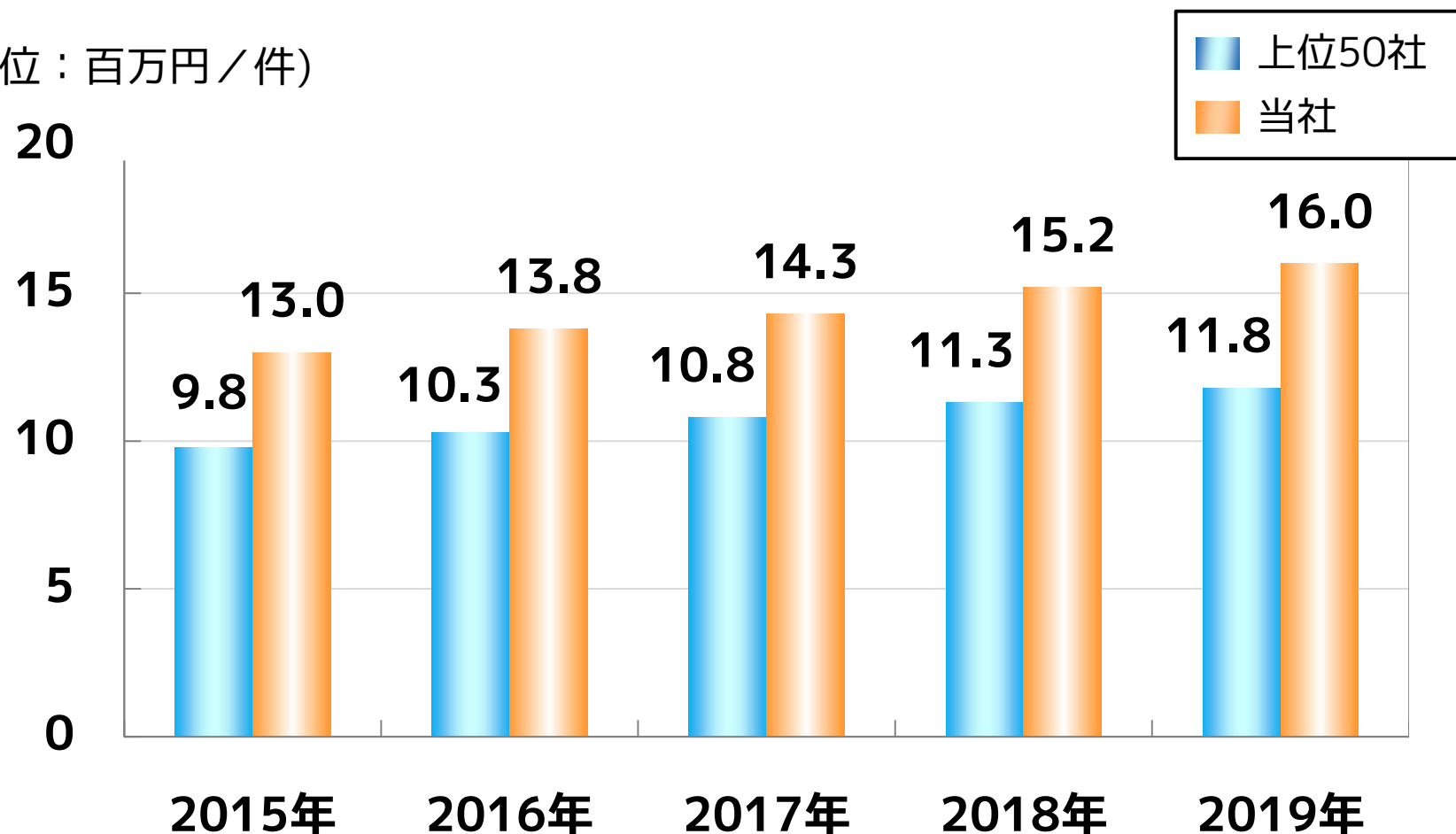
■ プロポーザルは海外部門の回復で大きく増加



一件あたりの契約額の推移（個別）

■ 技術者単価上昇による一件あたりの契約額のUP

(単位：百万円／件)

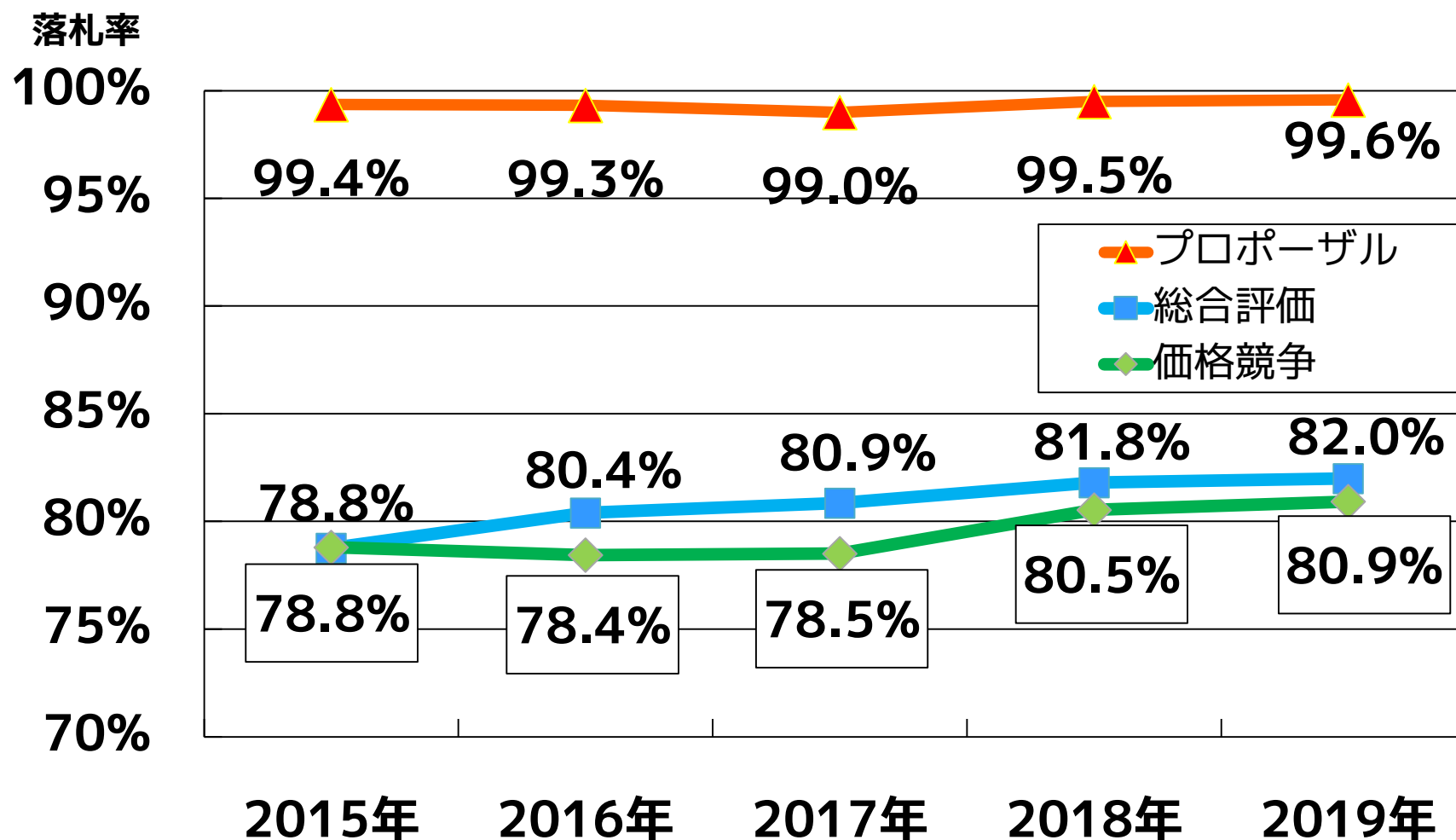


出典： 国土交通省総合政策局 情報政策課 建設経済統計調査室 公表資料
「建設関連業の動態調査」（12月分）第2表建設関連業等動態調査
（建設コンサルタント50社）：発注者別・国内海外別



当社の契約方式別平均落札率の推移

■ 例年並みに推移



※対象業務：過去5カ年の期末において当社が受注し予定価格が公表された業務（変更契約は含まない）、JV・共同設計方式により受注した案件、単価契約および特命随意契約の業務は対象外。



- 1 第57期決算報告
- 2 第57期の事業を振り返って
- 3 第58期経営計画
- 4 英国Waterman Group Plcについて



第57期の事業を振り返って

■ 57期の総括

第57期の方針	未来を見据え変革にチャレンジ
第57期の 重点テーマ	グループ一体となった質量両面の事業拡大 ICT等の活用による生産性向上 個人が効果を実感できる働き方改革の実践 グループガバナンスの強化



第57期の事業を振り返って

■ グループ一体となった質量両面の事業拡大

- ◆ グループ全体での受注目標（630億円）を70億円上回る受注を達成
 - ・ 主な連携業務は、区画整理、公園計画、施設設計、環境分析業務など
- ◆ 台風第19号（2019年10月）における全グループ対応
 - ・ 国土交通省、自治体、学協会などから、河川・海岸分野を中心に122件の災害対応要請があり、107件に対応
- ◆ グループ協働の実績 技術開発、事業開発
（深部地質調査、総合都市・建築事業（PPPなど）、PCB調査・分析、遺伝子解析など）

■ ICT等の活用による生産性向上

- ◆ 業務効率化推進室による作業のデジタル化推進
 - ・ RPAプラットフォームの開設、ツールの導入、プログラミング指導の実施
- ◆ 就業規則の改正、テレワーク勤務規程の制定（2019年6月）
 - ・ 在宅勤務、サテライトオフィス勤務、モバイルワークの実施
 - ・ テレワーク利用者は1,086人（普及率65%）



第57期の事業を振り返って

■ グループ一体となった質量両面の事業拡大

◆ グループ協働の実績：グループ連携による業務の受注

- ・ 業務名：「服部天神駅前広場整備に向けた事業化検討調査支援業務」
- ・ 株式会社建設技術研究所（C）とグループ会社の日本都市技術株式会社（日）に加え株式会社日創設計（N）と協働企業体を組んでプロポーザルに参加、特定した。

主な業務内容は以下のとおり
（ ）は分担会社

- ・ 現地測量業務（日）
- ・ 駅前広場基本計画（C）
- ・ 事業化検討（日）
- ・ 建物などの現状調査（N）
- ・ 地権者などへの説明等発注者支援（C、日、N）



第57期の事業を振り返って

■ グループ一体となった質量両面の事業拡大

◆ 技術開発：不明水検知の技術開発

- ・ 業務名「AIによる音響データを用いた雨天時浸入水検知技術の実用化に関する実証事業」

・ 期待される効果

- ① 低コストで広域的な多点観測を実現
- ② AIによる分析の効率化・迅速化
- ③ 簡便な調査による現場リスクの低減



第57期の事業を振り返って

■ グループ一体となった質量両面の事業拡大

◆ 事業開発：PPP事業の獲得

- ・ 業務名「香陵公園等周辺整備PFI事業」（沼津市）
- ・ 清水建設株式会社、美津濃株式会社、株式会社梓設計などとコンソーシアムを組成し、参画

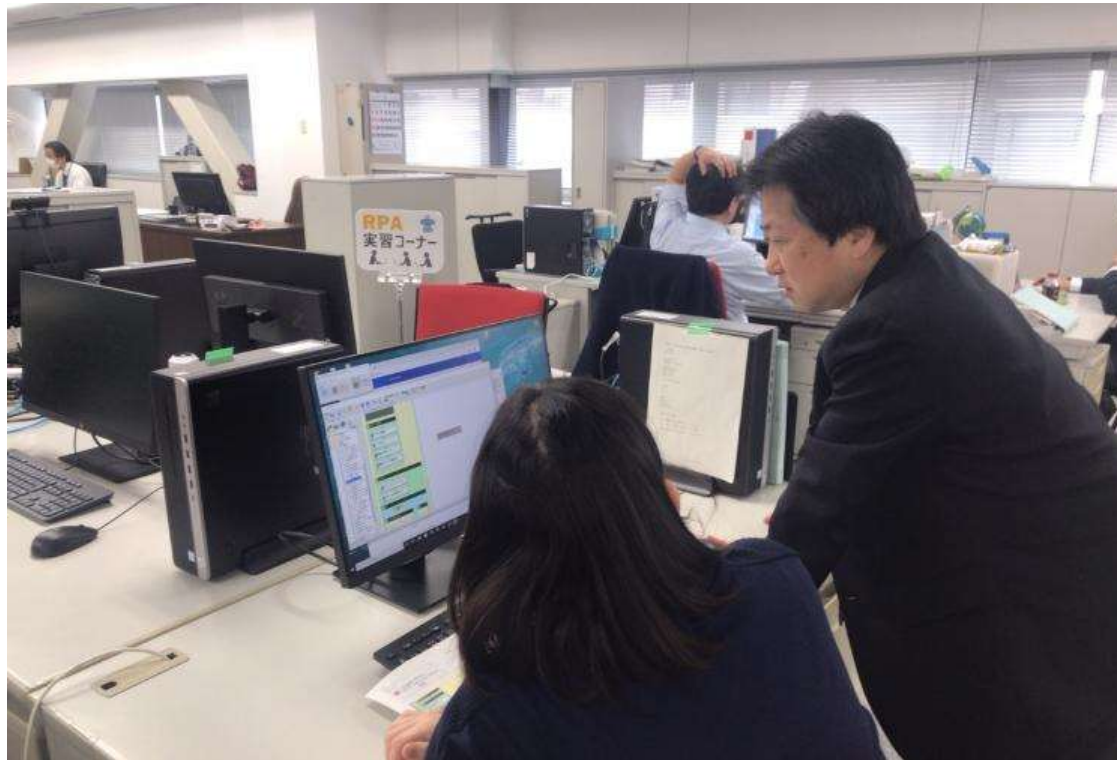


第57期の事業を振り返って

■ ICT等の活用による生産性向上

◆ 業務効率化推進室による作業のデジタル化推進（RPA化の推進）

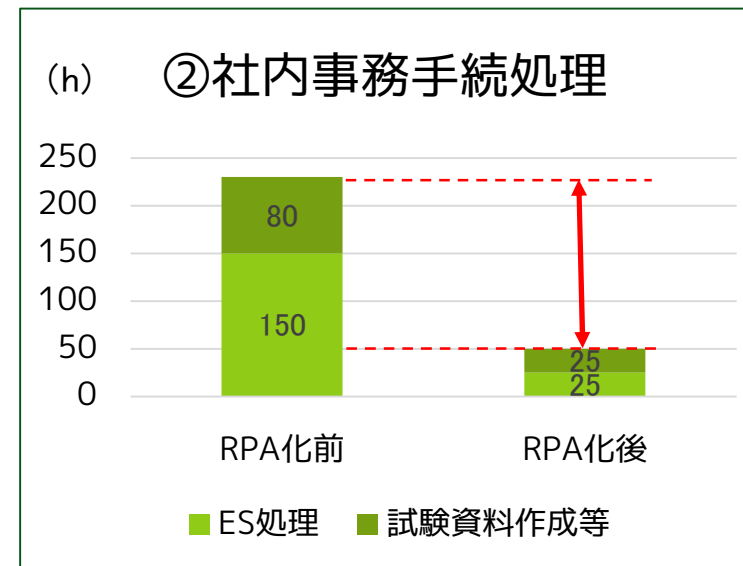
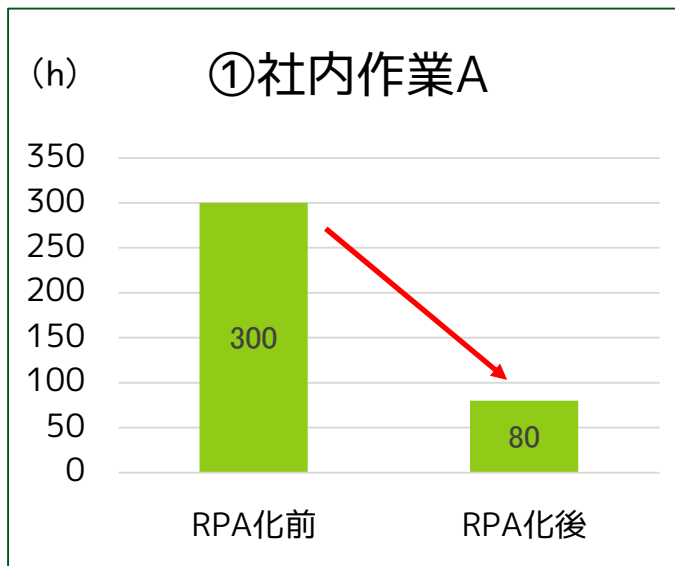
- ・ RPAプラットフォームの開設、ツールの導入を行うとともに、
全社への展開に向け説明会、プログラミング指導を実施



RPAプラットフォームにおけるプログラミング指導の様子



RPA化による効率化の効果について(例)



① 社内作業A

・ 1,500人分の情報シートを集計表に手入力、様式、内容チェック → 全自動化
⇒ **作業時間削減＋ミス減少**

② 社内事務手続処理

・ WEB上で提出されたシートをサイトからダウンロード（数百人分） → 全自動化
⇒ **作業時間削減**
⇒ **削減した時間により処理後のフォローアップを強化、
新たな取り組みの検討時間にシフト！**

第57期の事業を振り返って

■ 個人が効果を実感できる働き方改革の実践

◆ 各種制度の導入・運用

- ・ 多様な働き方を実践するための休暇制度
（時間休制度、積立有給休暇制度）

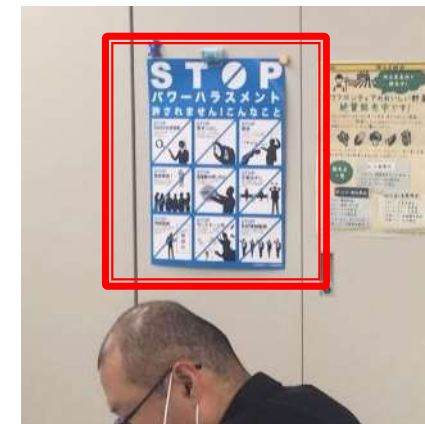
◆ 人材処遇制度改革検討委員会の設置

- ・ 当社の持続的成長のために、社員一人ひとりが成長し活力を持って長く働くことができる制度を目標とした人事処遇制度を検討中

■ グループガバナンスの強化

◆ ガバナンス統括本部設置による各種活動の実施

- ・ グループガバナンス強化のための
内部統制システム整備(コンプライアンス基本方針改定など)
- ・ グループ全社での働き方改革関連法の理解深化、
コンプライアンス研修の実施、啓発ポスターの掲示



啓発ポスターの掲示



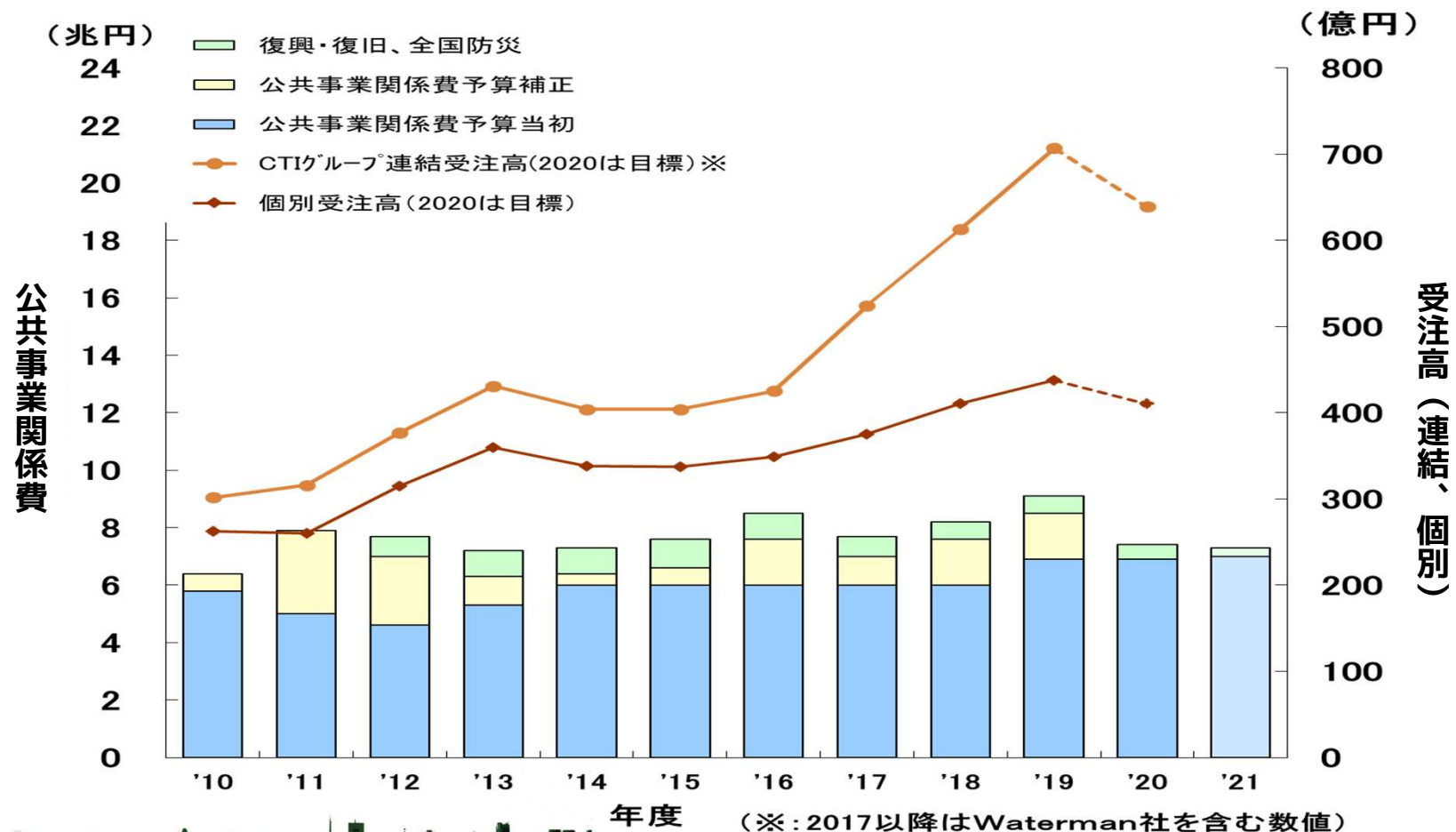
- 1 第57期決算報告
- 2 第57期の事業を振り返って
- 3 第58期経営計画
- 4 英国Waterman Group Plcについて



第58期経営計画

事業環境

- 2019年度補正予算は約1.6兆円、2020年度当初予算は約6.9兆円（公共事業関係費）



第58期経営計画

■ スローガン：CTIグループ一丸となった事業構造の変革 重点テーマ

- ◆ グループ連携のさらなる推進による事業拡大
- ◆ 生産性向上等による労働環境改善
- ◆ 社員がやる気を出すための新人事システムの導入
- ◆ リスク管理の強化



第58期経営計画

■ 事業拡大に向けた将来への投資①（予算）

◆ 研究開発投資 総額9.5億円

- ・ オンデマンドモビリティサービスの事業化に向けた具体的検討
- ・ PPP事業推進グループによるPPP事業の開発、事業化推進
- ・ AI（Deep Learning）活用技術の開発と社内展開
- ・ 気象予測サービスを核とした災害情報共有システムの開発
- ・ 3次元データを用いた構造物の標準設計手法の開発
- ・ 人材育成の充実（社員研修、社会人大学院など）

◆ 社内情報システム整備による効率化の推進 総額1.6億円

- ・ CTI統合情報システム（技術系、営業系、管理系）の充実



第58期経営計画

■ 事業拡大に向けた将来への投資② (技術開発の加速に向けた取り組み)

◆ 研究開発投資の再編

① 目的別の技術開発の実施

- ・ 事業分野拡大技術開発
- ・ 事業展開最先端技術開発
- ・ 品質・生産性向上技術開発

② 専任制の拡充

専任者による複数年の継続による集中した技術開発

◆ 国土文化研究所の体制強化

研究員の増員

新たな組織の設置（国土文化事業部、インフラソリューショングループ、インテリジェンスサービスプラットフォーム、SDGsイノベーションハブ）



第58期営業計画（連結）

■ 増収増益を見込む

（単位：百万円）

項 目	第57期 （実績）	第58期 （計画）	前期比 （%）
受 注 高	70,718	64,000	90.5
売 上 高	62,649	65,000	103.8
営 業 利 益	4,267	4,400	103.1
経 常 利 益	4,397	4,500	102.3
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,808	2,900	103.3



第58期営業計画（個別）

■ 増収増益を見込む

（単位：百万円）

項 目	第57期 （実績）	第58期 （計画）	前期比 （%）
受 注 高	43,846	41,000	93.5
売 上 高	41,068	43,000	104.7
営 業 利 益	3,619	3,800	105.0
経 常 利 益	3,942	4,000	101.5
当 期 純 利 益	2,629	2,700	102.7
配 当	35円	（35円）	—



- 1 第57期決算報告
- 2 第57期の事業を振り返って
- 3 第58期経営計画
- 4 英国Waterman Group Plcについて



2019年のWaterman社の業績概要

■ 計画達成。円建ては為替の影響で下振れ。

(単位：百万円)
下段：百万ポンド

項 目	2019年 計画	2019年 実績	2020年 計画
売 上 高	14,000 £ 95.0m	14,204 £ 102.0m	13,500 £ 97.1m
営 業 利 益	650 £ 4.4m	617 £ 4.4m	600 £ 4.4m
税 引 前 利 益	600 £ 4.0m	567 £ 4.1m	550 £ 4.0m
為 替 レ ー ト	@148円/ £	@139円/ £	@139円/ £



第57期の主要プロジェクト紹介

～ カナダ・ウォーター再開発事業への参画～

- 2019年に事業計画が承認されたロンドン南東の大規模な都市再開発事業（概算規模：5,600億円）。
- 計画面積は214,000m²と広大で、住宅、オフィス、ショップ、レジャー施設、公園、教育施設などが新設される予定。
- Watermanは計画の基本検討やインフラ・サービス、構造設計、土木設計・環境影響調査、植生などについてコンサルティングサービスを提供。



カナダ・ウォーター地区の将来イメージ



相互技術連携によるシナジーの追求

- CTI国内グループ各社においてWatermanとの連携を進め、技術連携、各社の強みを活かした新規市場への展開、事業拡大を推進。



Watermanプロジェクトの視察

分野	主な連携テーマ
道路	・ 路面性状調査システム（DRIMS） ・ 道路・橋梁等維持管理技術 ・ 移動手段の利便性向上技術
河川	・ 洪水解析技術 ・ 水災害リスクマッピングシステム（Riskma）
都市建築	・ 3次元設計（BIM） ・ 都市/建築分野での技術協力
環境	・ 環境情報提供サービス



人材交流によるグループ力の強化

- Watermanとのグループ一体化を推進するため、さまざまな機会を活用し、一般職員から役員レベルまで活発な人材交流を図っている。



全社技術研修会への参加



ラグビーWC共同観戦



トピックス

- 1 RisKma（水災害リスクマッピングシステム）によるサービス展開を進めます
- 2 「土木学会デザイン賞2019」を受賞しました
- 3 土木学会「土木広報大賞2019」イベント部門で準優秀部門賞を受賞しました
- 4 「建設技術展2019近畿」にて「注目技術賞」を受賞しました
- 5 国づくり狂言プロジェクトに参加しています
- 6 『今こそ問う 水力発電の価値 その恵みを未来に生かすために』を出版しました



RisKma（水災害リスクマッピングシステム） によるサービス展開を進めます

- 水災害リスクメール配信、水災害対策コンサルティング、水災害関連データ提供など、自治体・法人向けサービスにも展開していきます。



QRコード
はこちら
です↓



1月にリニューアルしたポータルサイト画面



「土木学会デザイン賞2019」を受賞しました

- 受賞日：2019年11月21日
- 公益社団法人土木学会主催の「土木学会デザイン賞2019」で、当社がプロジェクトの一員として担当した「女川駅前シンボル空間／女川町震災復興事業」が最優秀賞を受賞しました。



女川駅前レンガみち



土木学会「土木広報大賞2019」イベント部門 で準優秀部門賞を受賞しました

- 受賞日：2019年10月7日
- 「大人の社会科見学 江戸東京・川のなぜなぜ舟めぐり～シビルエンジニアから聞く川にまつわる話～」および関連セミナーがイベント部門で準優秀部門賞を受賞しました。



参加者との集合写真



「建設技術展2019近畿」にて「注目技術賞」を受賞しました

- 受賞日：2019年10月24日
- 当社が技術展示した「RisKma～水災害リスクマッピングシステム～」が「技術の先進性」「効果」「活用性」などの観点から「注目技術賞」に選ばれました（今年の注目技術賞は、技術展示188件中2件が受賞しました）。



表彰状を受け取る当社の社員



国づくり狂言プロジェクトに参加しています

- イベント実施日：2019年10月12日～14日（2021年まで開催予定）
- 「土木の神さま」加藤清正公の功績を題材に新作狂言を上演し、土木の魅力と地域の誇りを発信します。当社は実行委員会委員として運営をサポートしています。



「冥加さらえ」で小河童を演じた愛知の小学生



『今こそ問う 水力発電の価値 その恵みを未来に生かすために』を出版しました

- 発刊日：2019年11月5日
- 本書は、2015年～2017年にかけて実施した国土文化事業研究「再生可能エネルギーにおける水力発電の価値評価と開発推進に向けた研究」の成果をとりまとめたものです。

監修：角 哲也、井上 素行、池田 駿介、上阪 恒雄

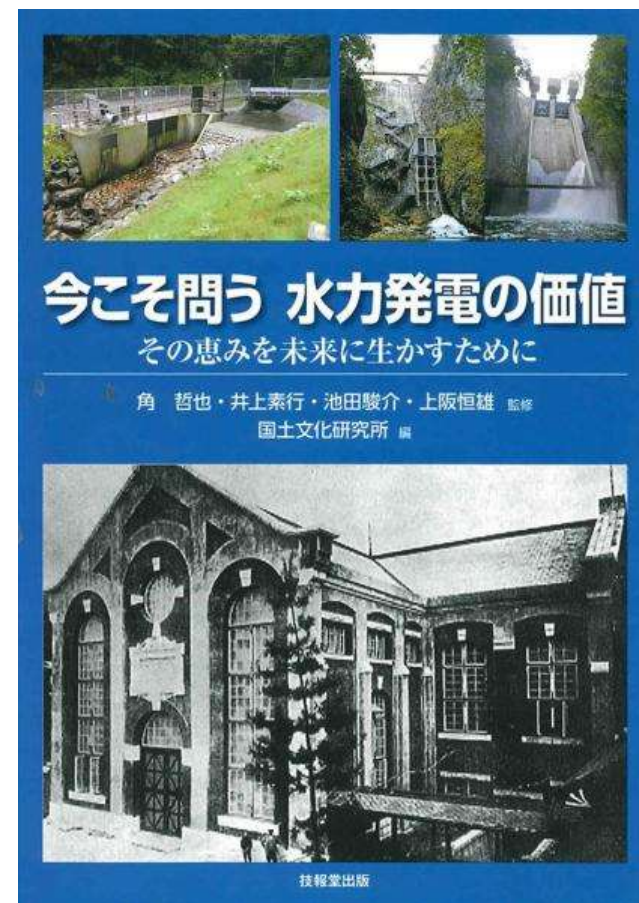
編集：国土文化研究所

執筆：水力発電価値評価研究会

角 哲也、井上 素行、池田 駿介、上阪 恒雄、
石田 裕哉、甲斐 史朗、小島 裕之、酒井 匠、
志田 孝之、丹羽 尚人、山邊 健二、
米澤 公太郎、富重 明彦、伴 至

発行：技報堂出版株式会社

価格：2,200円（税別）



ご清聴ありがとうございました!

